

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	沖縄総合事務局長
【提出日】	平成29年8月3日
【四半期会計期間】	第27期第1四半期（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）
【会社名】	沖縄セルラー電話株式会社
【英訳名】	OKINAWA CELLULAR TELEPHONE COMPANY
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 湯浅 英雄
【本店の所在の場所】	沖縄県那覇市松山1丁目2番1号
【電話番号】	098(869)1001(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営管理部長 上原 靖
【最寄りの連絡場所】	沖縄県那覇市松山1丁目2番1号
【電話番号】	098(869)1001(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営管理部長 上原 靖
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第1四半期 連結累計期間	第27期 第1四半期 連結累計期間	第26期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成29年4月1日 至平成29年6月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
営業収益 (百万円)	15,122	15,455	63,017
経常利益 (百万円)	3,631	3,108	11,753
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,448	2,113	7,999
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,524	2,206	8,443
純資産額 (百万円)	66,770	71,983	71,304
総資産額 (百万円)	77,596	81,140	84,113
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	89.56	77.30	292.56
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	83.3	85.7	82.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,958	790	15,792
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	645	908	12,815
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,416	1,548	3,060
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	2,871	3,042	2,891

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

わが国経済は、個人消費は緩やかに持ち直していることに加え、企業の収益も改善しており、緩やかな回復基調が続いております。

当社業務区域である沖縄県の経済は、県内人口の増加や観光需要、県内の雇用・所得環境の改善を背景として個人消費が堅調に推移しております。また、観光・建設関連も好調を維持しており、全体として拡大しております。

情報通信市場は、携帯電話事業者が提供するサービスなどの同質化や、MVNO事業者による格安SIMサービスなどの普及が進み、競争環境は厳しさを増しております。

さらに、総務省による「スマートフォンの料金負担の軽減及び端末販売の適正化に関する取組方針」を踏まえた携帯電話事業者への要請及びガイドラインの施行などの制度面の変化、IoTや人工知能（AI）などのテクノロジーの発展もあり、事業環境は新たな局面を迎えております。

このような情勢のもと、平成30年3月期第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年6月30日）における当社のグループ会社を含めた経営成績は以下のとおりであります。

<業績の概要>

	前第1四半期 連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	増減	増減率(%)
営業収益(百万円)	15,122	15,455	332	2.2
営業費用(百万円)	11,504	12,356	851	7.4
営業利益(百万円)	3,618	3,099	518	14.3
経常利益(百万円)	3,631	3,108	522	14.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	2,448	2,113	335	13.7

当第1四半期連結累計期間における営業収益については、携帯電話サービス及びauひかりちゅらサービスの顧客基盤が拡大したことから、通信料収入が増加し、前年同期比332百万円増加（2.2%増）の15,455百万円となりました。

営業費用については、販売関連コストが増加し、前年同期比851百万円増加（7.4%増）の12,356百万円となりました。

これらの結果、営業利益は前年同期比518百万円減少（14.3%減）の3,099百万円、経常利益は前年同期比522百万円減少（14.4%減）の3,108百万円となりました。

以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比335百万円減少（13.7%減）の2,113百万円となりました。

なお、設備投資の状況については、高速データ通信サービスに係る設備及びau携帯電話サービスにおけるデータトラフィックの増加に伴う通信設備の増設、auひかりちゅらサービスに係る設備の拡張などを実施したことにより、設備投資額は661百万円となりました。

当社グループは単一のセグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

なお、当社グループにおけるサービス別の実績は、次のとおりであります。

(携帯電話サービス)

< 契約数・解約率・ARPA >

	前第1四半期 連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	増減	増減率(%)
純増数	1,900	3,500	1,600	88.4
総契約数	644,800	659,700	14,900	2.3
解約率(%)	0.61	0.63	0.02ポイント	-
総合ARPA(円)	6,536	6,650	114	1.7
au通信ARPA(円)	6,251	6,331	80	1.3
付加価値ARPA(円)	285	319	34	11.9

当第1四半期連結累計期間における携帯電話サービスの状況につきましては、auのラインナップとサービスの充実、ネットワーク品質の向上など、お客様重視のサービスに取り組んだ結果、前第1四半期連結会計期間末と比較して、総契約数が14,900契約増加(2.3%増)の659,700契約となりました。

解約率については、事業者間やMVNO事業者との競争が激化しているものの、前年同期比0.02ポイント増加の0.63%と前年同期並みの水準となりました。

ARPAについては、総合ARPAは前年同期比114円増加(1.7%増)の6,650円となりました。このうち、au通信ARPAについては1人あたりモバイルデバイス数が堅調に推移し、前年同期比80円増加(1.3%増)の6,331円となりました。付加価値ARPAについては、「auスマートパス」の契約数の増加を主因として前年同期比34円増加(11.9%増)の319円となりました。

- (注) 1. 純増数及び総契約数には、データ専用端末、タブレット、通信モジュールサービスの契約数も含まれております。
2. 純増数及び総契約数は百契約未満を四捨五入しており、増減は端数処理後の数値を記載しております。
3. 解約率：対象期間の解約数を、対象期間の前月末総契約数で除したものの。
 なお、今期よりUQ mobileの解約数も含まれております。
 (データ専用端末、タブレット、通信モジュールを除く)
4. ARPA(Average Revenue Per Account)：契約者1人あたりの売上高。MVNO及びプリペイドは除く。
 au通信ARPA：モバイル通信料収入 ÷ au契約者数
 付加価値ARPA：付加価値ARPA収入(「決済手数料収入 + 自社サービス他収入など」) ÷ au契約者数

au携帯電話サービスの主なトピックス(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(auラインナップ)

当第1四半期において発売された主な商品

- ・スマートフォン
 - 「Xperia XZs」の発売(5月)
 - 「Galaxy S8」の発売(6月)
 - 「Galaxy S8+」の発売(6月)
 - 「TORQUE G03」の発売(6月)
- ・タブレット
 - 「10.5インチiPad Pro」の発売(6月)
 - 「12.9インチiPad Pro」の発売(6月)
- ・その他
 - 「Qua station」の発売(4月)

(注) 商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

(auひかりちゅらサービス)

< auひかりちゅらの状況 >

	前第1四半期 連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	増減	増減率(%)
純増回線数	3,200	2,200	1,000	32.7
累計回線数	69,400	78,900	9,500	13.7

(注) 1. 純増回線数及び累計回線数は百回線未満を四捨五入して表示しております。
 2. 増減については端数処理後の数値を記載しております。

当第1四半期連結累計期間におけるauひかりちゅらサービスの状況につきましては、純増回線数は前期比では1,000回線減少するも、累計回線数は前年同期比9,500回線増加(13.7%増)の78,900回線となりました。

(2) 財政状態

< 資産、負債及び純資産の状況 >

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (平成29年6月30日)	増減	増減率(%)
資産(百万円)	84,113	81,140	2,973	3.5
負債(百万円)	12,809	9,156	3,652	28.5
有利子負債(百万円)	459	431	27	6.0
純資産(百万円)	71,304	71,983	679	1.0
自己資本比率(%)	82.0	85.7	3.7ポイント	-

当第1四半期連結会計期間末における資産については、関係会社短期貸付金が減少したことなどにより、前連結会計年度末と比較して2,973百万円減少(3.5%減)の81,140百万円となりました。

負債については、未払金や未払法人税等が減少したことなどにより、前連結会計年度末と比較して3,652百万円減少(28.5%減)の9,156百万円となりました。

純資産については、配当金の支払いがあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によって利益剰余金が増加したことなどにより、前連結会計年度末と比較して679百万円増加(1.0%増)の71,983百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の82.0%から85.7%に上昇いたしました。

(3) キャッシュ・フローの状況

	前第1四半期 連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,958	790	1,167
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	645	908	1,554
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,416	1,548	131
現金及び現金同等物の増減額(百万円)	102	151	254
現金及び現金同等物の期首残高(百万円)	2,974	2,891	83
現金及び現金同等物の四半期末残高 (百万円)	2,871	3,042	171
フリー・キャッシュ・フロー(百万円)	1,313	1,699	386

(注)フリー・キャッシュ・フローは「営業活動によるキャッシュ・フロー」と「投資活動によるキャッシュ・フロー」の合計であります。

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、3,042百万円となりました。
 なお、当第1四半期連結累計期間におけるフリー・キャッシュ・フローは1,699百万円となりました。
 当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローについては、売上債権が減少したものの、税金等調整前四半期純利益の減少や仕入債務の支払が増加したことなどにより、前第1四半期連結累計期間と比較して1,167百万円収入が減少し、790百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローについては、固定資産の取得による支出の減少や関係会社短期貸付金の回収による収入が増加したことなどにより、前第1四半期連結累計期間と比較して1,554百万円支出が減少し、908百万円の収入となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローについては、配当金の支払いが増加したことなどにより、前第1四半期連結累計期間と比較して131百万円支出が増加し、1,548百万円の支出となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月3日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	27,342,000	27,342,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	27,342,000	27,342,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	-	27,342,000	-	1,414	-	1,614

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,339,200	273,392	-
単元未満株式	普通株式 2,800	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	27,342,000	-	-
総株主の議決権	-	273,392	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,900株(議決権の数19個)含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づき、同規則及び「電気通信事業会計規則」（昭和60年郵政省令第26号）により作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PwC京都監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
固定資産		
電気通信事業固定資産		
有形固定資産		
機械設備	35,184	35,315
減価償却累計額	23,894	24,562
機械設備(純額)	11,290	10,752
空中線設備	11,121	11,088
減価償却累計額	5,669	5,835
空中線設備(純額)	5,451	5,253
端末設備	1,173	1,184
減価償却累計額	665	680
端末設備(純額)	507	504
市内線路設備	12,238	12,393
減価償却累計額	6,820	6,997
市内線路設備(純額)	5,418	5,395
市外線路設備	37	37
減価償却累計額	10	11
市外線路設備(純額)	26	25
土木設備	206	207
減価償却累計額	45	47
土木設備(純額)	160	160
海底線設備	349	349
減価償却累計額	349	349
海底線設備(純額)	-	-
建物	11,006	11,006
減価償却累計額	2,917	3,030
建物(純額)	8,089	7,976
構築物	1,122	1,128
減価償却累計額	832	844
構築物(純額)	289	283
機械及び装置	165	165
減価償却累計額	79	83
機械及び装置(純額)	86	82
車両	161	161
減価償却累計額	157	157
車両(純額)	4	4
工具、器具及び備品	1,497	1,501
減価償却累計額	970	1,007
工具、器具及び備品(純額)	526	493
土地	2,087	2,087
建設仮勘定	520	726
有形固定資産合計	34,459	33,746

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
無形固定資産		
施設利用権	76	73
ソフトウェア	633	599
借地権	2	2
その他の無形固定資産	9	9
無形固定資産合計	721	685
電気通信事業固定資産合計	35,181	34,431
附帯事業固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産	698	681
減価償却累計額	411	426
有形固定資産(純額)	286	254
有形固定資産合計	286	254
無形固定資産		
無形固定資産合計	15	13
附帯事業固定資産合計	301	267
投資その他の資産		
投資有価証券	558	559
社内長期貸付金	19	18
長期前払費用	1,002	1,076
繰延税金資産	667	567
敷金及び保証金	37	37
その他の投資及びその他の資産	64	59
貸倒引当金	37	32
投資その他の資産合計	2,311	2,286
固定資産合計	37,794	36,985
流動資産		
現金及び預金	2,891	3,042
売掛金	18,613	17,886
未収入金	1,211	1,107
貯蔵品	725	987
前渡金	19	6
前払費用	205	421
繰延税金資産	312	255
関係会社短期貸付金	22,507	20,606
その他の流動資産	7	7
貸倒引当金	174	167
流動資産合計	46,318	44,154
資産合計	84,113	81,140

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
固定負債		
長期借入金	184	184
リース債務	65	50
ポイント引当金	1,053	752
退職給付に係る負債	219	213
資産除去債務	187	188
その他の固定負債	38	38
固定負債合計	1,748	1,427
流動負債		
1年以内に期限到来の固定負債	111	111
買掛金	2,073	840
リース債務	97	84
未払金	5,849	4,359
未払費用	166	164
未払法人税等	1,743	942
前受金	244	271
預り金	500	805
賞与引当金	251	139
役員賞与引当金	18	6
その他の流動負債	2	2
流動負債合計	11,060	7,728
負債合計	12,809	9,156
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,414	1,414
資本剰余金	1,615	1,615
利益剰余金	65,980	66,589
自己株式	0	0
株主資本合計	69,010	69,620
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	70	79
退職給付に係る調整累計額	136	135
その他の包括利益累計額合計	66	56
非支配株主持分	2,360	2,419
純資産合計	71,304	71,983
負債・純資産合計	84,113	81,140

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
電気通信事業営業損益		
営業収益	10,861	11,162
営業費用		
営業費	2,626	2,639
施設保全費	1,013	1,004
管理費	442	471
減価償却費	1,346	1,411
固定資産除却費	109	135
通信設備使用料	1,579	1,541
租税公課	113	169
営業費用合計	7,229	7,373
電気通信事業営業利益	3,631	3,789
附帯事業営業損益		
営業収益	4,261	4,292
営業費用	4,274	4,982
附帯事業営業損失()	13	689
営業利益	3,618	3,099
営業外収益		
受取利息	4	5
受取配当金	3	4
受取賃貸料	1	1
受取保険金	0	0
受取補償金	-	4
雑収入	4	5
営業外収益合計	14	22
営業外費用		
支払利息	1	1
投資有価証券評価損	-	12
雑支出	0	0
営業外費用合計	1	13
経常利益	3,631	3,108
税金等調整前四半期純利益	3,631	3,108
法人税、住民税及び事業税	920	760
法人税等調整額	180	152
法人税等合計	1,100	913
四半期純利益	2,530	2,195
非支配株主に帰属する四半期純利益	81	81
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,448	2,113

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	2,530	2,195
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	9
退職給付に係る調整額	2	1
その他の包括利益合計	5	11
四半期包括利益	2,524	2,206
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,442	2,123
非支配株主に係る四半期包括利益	81	82

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,631	3,108
減価償却費	1,379	1,442
固定資産除却損	75	99
貸倒引当金の増減額(は減少)	7	12
ポイント引当金の増減額(は減少)	8	301
賞与引当金の増減額(は減少)	104	111
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	0	5
受取利息及び受取配当金	8	9
支払利息	1	1
投資有価証券評価損益(は益)	-	12
売上債権の増減額(は増加)	94	726
たな卸資産の増減額(は増加)	82	219
仕入債務の増減額(は減少)	340	1,233
未払金の増減額(は減少)	1,367	1,444
その他	64	252
小計	3,508	2,304
利息及び配当金の受取額	8	9
利息の支払額	-	0
法人税等の支払額	1,558	1,522
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,958	790
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,836	848
有形固定資産の売却による収入	-	8
無形固定資産の取得による支出	1	15
投資有価証券の売却による収入	1	-
関係会社短期貸付金による支出	4,904	5,404
関係会社短期貸付金の回収による収入	6,107	7,305
その他の支出	15	139
その他の収入	4	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	645	908
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	32	27
配当金の支払額	1,360	1,496
非支配株主への配当金の支払額	23	23
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,416	1,548
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	102	151
現金及び現金同等物の期首残高	2,974	2,891
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,871	3,042

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
現金及び預金勘定	2,871百万円	3,042百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	2,871	3,042

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月16日 定時株主総会	普通株式	1,367	50.0	平成28年3月31日	平成28年6月17日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

著しい変動がないため記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月15日 定時株主総会	普通株式	1,503	55.0	平成29年3月31日	平成29年6月16日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

著しい変動がないため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	89円56銭	77円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	2,448	2,113
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	2,448	2,113
普通株式の期中平均株式数(千株)	27,341	27,341

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 3 日

沖縄セルラー電話株式会社

取締役会御中

P w C 京都監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 篤 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 若山 聡満 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている沖縄セルラー電話株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、沖縄セルラー電話株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。